



武田光由議員  
(公明党)



## がん患者の外見変化へのケアを

がん患者にとって、治療のつらさだけでなく、脱毛など治療による外見の変化も苦痛を伴う。

がん患者の社会生活を応援するため、医療用ウイッグや胸部補整具の購入に対し助成を実施すべきと考えるが、市の見解を伺う。

**答 「市長」** 医療用ウイッグ等の購入費助成について、県内では、令和6年4月時点で23市町村が実施しており、近隣では、酒々井町、多古町、横芝光町が本年4月から助成を開始している。

医療用ウイッグ等の購入費助成について、近隣市町の動向やすでに取り組んでいる市町の事業内容、利用状況を調査研究していく。

## クラウド型被災者支援システムについて

国として新たに被災者支援業務の迅速化・効率化に、行政手続きの電子化や被災者支援のためのシステムの整備等が有効であるため、クラウド型被災者支援システムを構

築し、令和4年度から地方公共団体の情報システム構築が運用を開始している。

本市もクラウド型被災者支援システムを導入すべきと考えるが、所見を伺う。

**答 「市長」** 本市における被災者支

援システムとしては、平成27年度に千葉県地域災害情報連携システムを導入しているが、現在、機能上の問題から運用を中止しており、新システムの導入に向け、情報収集を進めている。

議員から提案のあつたクラウド型被災者支援システムについては、被災者台帳の作成など、被災者支援に関するさまざまな事務に対応した総合的なシステムであるとともに、序

舎が被災しても業務継続が可能であるといった有用なシステムであると認識している。

しかし、まだ導入実績が少ないので、導入事例や活用事例を調査研究してまいりたい。

千葉県のシステムを導入したが、

現在は運用を中止しているとのことなので、早くクラウド型被災者支援システムの導入を進めていただきたい。

**答 「総務課長」** 国が開発したシス

テムと民間事業者が開発したシステムがあるので、効果的に活用できるシステムの導入を研究してまいりたい。



内山隼人議員  
(Think globally,  
Act locally!)



## 世界で日本だけが承認した自己増殖型レプリコンワクチンの安全性は?

レブリコンワクチンは、今までのmRNAワクチンとは異なる全く新しいタイプのワクチンで、専門家が警鐘を鳴らしている。ワクチンに使われているベネズエラウマ脳炎ウイルスはアルファウイルスという属性で、変異率が高く、体の中で増えている間に変わってしまい、目的とするもの以外の予想外のものが複製される可能性がある。さらに増殖のブレーキがなく、増殖が止まらない人が出てくるかもしれない、と指摘されている。

**答 「市長」** 国で決定されたことない。匝瑳市ではどのような接種体制で臨むか。

匝瑳市ではどのよつな接種体制で臨むか。

**答 「市長」** コロナワクチンの予防接種健康被害救済制度の認定数は、

20日の国審議結果では、認定件数は7、354件、死亡に係る認定数は593件。

これまでのコロナワクチン以外のすべてのワクチンの予防接種健康被害救済制度認定数の合計は、

**答 「健康管理課長」** 昭和52年2月から開始された新制度分の累計で、認定数3、522人、死亡に係る認定は151人。

**答 「市長」** 47年間のすべてのワクチンの認定数をコロナワクチンだけで上回っている。しかも認定数は2倍。死亡に係る認定数は4倍近く。予防接種健康被害救済制度に対する国の令和5年度の当初予算は3億6千万円だったが、補正し、397億7千万円となり、予想の110倍の健康被害が出てきているとも言える。

ワクチンの接種履歴の保存期限は、デメリットの情報を伝える必要がある。大阪の泉大津市は、接種の案内に副反応疑いの数も同封している。しっかりと行政としての役割を遂行しているので、それに倣つほしい。

**答 「健康管理課長」** ワクチン接種に係る予診票の保存期限は5年となつていて。

**答 「健康管理課長」** ワクチン接種を判断する上で、

デメリットの情報を伝える必要がある。大阪の泉大津市は、接種の案内に副反応疑いの数も同封している。しっかりと行政としての役割を遂行しているので、それに倣つほしい。

**答 「健康管理課長」** どのような内

容で実施していただか、まず確認をさせていただきたい。